

ウガンダを有機農業大国に—株式会社坂ノ途中事業紹介—

2013年12月13日

株式会社坂ノ途中 海外事業担当

宮下 芙美子

miyashita@on-the-slope.com

株式会社坂ノ途中（さかのとちゅう）は、「100年先も続く農業を」「未来からの前借り、やめましよう」をメッセージとして掲げ、ビジネスを通して環境負荷の小さい持続可能な農業の普及に取り組む企業です。2009年に京都を拠点に創業、日本国内で農薬・化学肥料を用いずに栽培された農産物の流通・販売を行い、生産者の方々を支える事業を展開してきました。2013年からは、環境負荷の小さい農業の担い手となる若手就農者の研修機能も備えた自社農場の運営にも取り組んでいます。

2012年度より、同じく京都を拠点とする株式会社山田製油と共同で、ウガンダ共和国南西部の乾燥化が進行する地域で、ゴマの有機栽培による生産、および日本向け輸出事業に取り組んでいます。ゴマは1) 乾燥に強い、2) 農薬や化学肥料に頼らずに育てやすい、3) 栽培は比較的容易ながら、収穫後の選別等に人手が必要——といった特徴から、今後アフリカで生産拡大がおおいに見込める品目の一つです。干ばつに苦しむ地域にゴマ栽培を導入し、契約によって安定的に一定量を買取るため、生産者の所得向上と現地の農業の環境負荷の低減の両立を図る取り組みで、社会的意義も非常に大きいと言えます。

自社スタッフを農村部まで派遣して現場で直接指導することで日本市場に見合うよう品質を向上させています。質・量ともに安定化させて輸入し、日本国内で熟練の技術を用いて加工して魅力的な商品に仕上げ、販売します。なお、この事業はJETRO（日本貿易振興機構）による「開発輸入企画実証事業」の助成案件として2年連続（2012年度、2013年度）で採択をいただいています。

欧米諸国や日本などのいわゆる先進国では、生産者・消費者双方の意識が少しずつ高まり、農薬や化学肥料の使用量も横ばいが続いています。ウガンダをはじめとするアフリカ諸国では今まさに農薬・化学肥料が持ち込まれ、経済発展に伴ってこれから使用量が増大せんとしています。だからこそ、環境負荷の小さい持続可能な農業の意義と重要性を訴え、普及のために働きかけていくことが必要となってきます。

2013年からは、ゴマ以外にもウガンダで生産される有機農産物の対日輸出を手掛けるようになり、シアバター、バニラビーンズ、はちみつなどの輸入も行っています。いずれも、環境に対する負荷の低減を図り、環境の保全に貢献できる方法を用いて生産されたもので、かつ、生産者の真摯な思いが込められたストーリーある商品です。

2013年秋には首都カンパラにオフィスを構え、現地法人も設立しました。今後はウガンダ国内を市場とする事業も併せて展開していきます。2014年からはその第1弾として、都市近郊の生産者を指導して農薬・化学肥料を用いずに野菜の生産を行い、カンパラ市内で流通・販売する事業を本格的に始動させる予定です。日本国内で展開してきた事業のモデルをウガンダでも応用する形で、蓄積したノウハウを活かして取り組みます。有機農業に取り組む生産者の収入を安定させ、フォロワーを生み出すことで、地域全体、ひいては国全体に有機農業が波及するような事業を行っていきます。